

## 圏外のアンテナ

[行き先はパリ]の巻

先日の四連休は、旅に出ている。行き先は秋のパリ。

実は「旅介（たびすけ）」という、新宿にある小さな旅行会社が主催するオンラインツアーに、自宅のPCから参加したのである。

リアルな旅が制限されている今、多数のオンラインツアーが企画されている。でも今までは、さほど乗り気になれなかった。テレビの旅番組や動画サイトとの違いは、生（ライブ）かどうかでことだけよね？ だったら別にいいかと、思っていた。

だが、今回のツアーには、そんな思い込みを超える引力があった。パリ在住20年の作家、辻仁成さんがツアーのガイドをしてくれるというのである。

そう。『ヘミングウェイと歩くパリ』という本を、長年愛読してきた元文学少女は、『辻仁成と歩くパリ』に、パクッと食いついたわけである。

こうして、土曜はエッフェル塔とセーヌ川、日曜はベルサイユ宮殿のオンラインツアーに参加した。

初日は、エッフェル塔を正面に見すえる、朝8時半のトロカデロ広場に集合。

マスク姿の辻さんのガイドはさすが作家で、実体験やエピソードが満載。セーヌ川の橋の下では、ここで発声練習をすると、銭湯のように声が響いてテンションがあがるという話。

シャン・ド・マルス公園では、ここでロマの子どもに財布をすられかけた時、じっと目を見て「何がほしいの？」と尋ねたら「コーラ」と、小さな声でつぶやいた話などを、一篇の小説のように語ってくれた。

あたりまえだが、残念だったのは、風や匂いまでは伝わってこないこと。でもきっと、遠からず、じぶんのアバター（分身）を旅に出すと、風も匂いも感じることができる、そんなデジタル技術が開花するだろう。

はじめてのオンラインツアーだったが、参加者から自由に発言できるチャット機能なども使われていて、おなじ「今」を、ともに旅するときめきがあった。

=2020年9月25日掲載=



昨年2月のパリ。まだだれもマスクじゃなかった頃